

ZOCALO 2019 6 ▶ 7

ZOCALO = ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

Julymuseum

hirofumikera

フォローする

投稿 1,025 件 フォロワー数 5,545 人 1,062 人をフォロー中

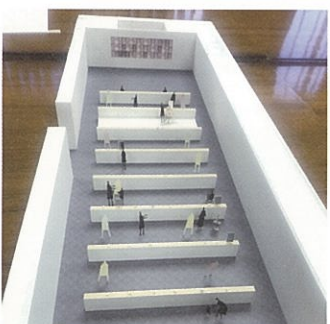
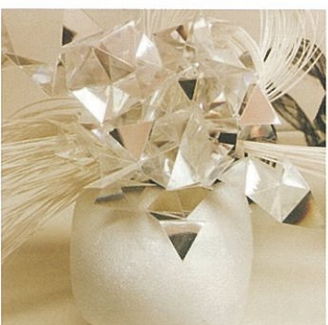
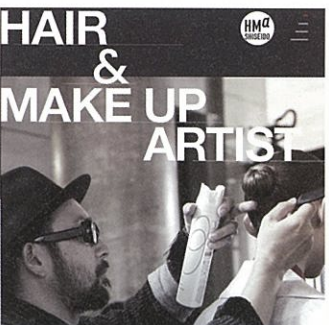
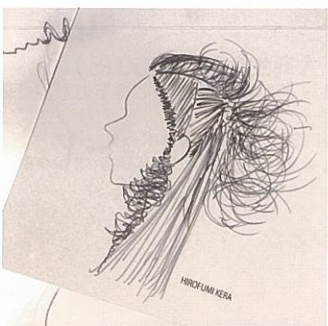
計良 宏文 / Hirofumi Kera

SHISEIDO Top hair & make-up artist
hma.shiseidogroup.jp/kera



May I Start? 計良宏文の絶頂するヘアメイク
7月6日(土) - 9月1日(日)
一般1100円(880円)、大高生880円(710円)

パロディコレクションをはじめ国内外のファッションショーのヘアメイクを務め、雑誌や広告のヘアメイクを多数手がけるなど、最先端の場で活躍する今注目のヘアメイクアップアーティスト・計良宏文(1971-)。近年は現代美術など他ジャンルのアーティストとの協働を通じて、ヘアメイクの概念を刷新する活動を展開しています。本展のための新作も加え計良のクリエイションの全貌を紐解く展示で、ヘアメイクの可能性を探ります。



さくねんのたまもの 平成 30 年度新収蔵品のご紹介

昨年度のソカロ 2・3 月号でもご報告したように、昨年度、当館ではポール・シニャック《アニエールの河岸》を購入しました。第 1 期 MOMAS コレクションでは、シニャックの著作『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』とあわせて展示しています。

続いて、昨年度ご寄贈いただいた作品をご紹介します。写真家の北野謙氏は、冬至と夏至を目安に長時間露光によって約半年間の太陽の軌跡を一枚の写真におさめる「光を集めるプロジェクト」に取り組んでいます。当館でも 2015 年の冬至から翌年の夏至まで屋上にカメラを設置し、2 点の作品を制作しました。このたび、このシリーズを中心に旧作・新作を紹介した「アーティスト・プロジェクト #2.02 北野謙：光を集める」(2017 年)の出品作品のうち、当館で撮影された作品を含む同シリーズの 6 点の作品をご寄贈いただきました。



北野謙《「光を集めるプロジェクト」清里フォトアートミュージアムから山梨県北杜市 2016 冬至 - 2017 夏至》2017 年

白木正一と早瀬龍江夫妻は、独立美術研究所、福沢絵画研究所などで学び、飯能市で活動した画家です。今回、1950 年代のシュルレアリスムの時代を中心とした二人の作品が加わりました。夫妻は飯能で白木絵画研究所を設立し、収集作家でもある小島喜八郎などを指導したことでも知られており、埼玉の地域美術を検証する上でも貴重な収蔵となりました。

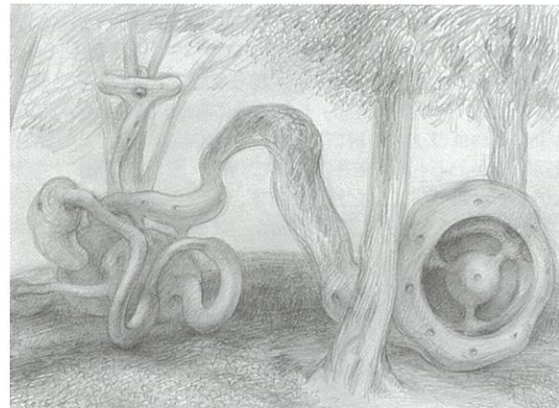


白木正一《生れくる》1956 年



早瀬龍江《屋上》1956 年

レストラン前の木立の中に置かれ、人々に親しまれている作品《果実の中の木もれ陽》。2016 年に行った 3 回目の増殖は記憶に新しいところですが、作者の橋本真之氏より、この時の増殖の完成イメージとして描かれたドローイングをご寄贈いただきました。すでに収蔵しているドローイングとあわせて、成長する作品というコンセプトを理解する上で重要なドキュメントとなります。



橋本真之《《果実の中の木もれ陽》増殖予想図(東側から)》2016 年



寺内萬治郎《風景》

また、長らくご遺族から寄託されていた寺内萬治郎の油彩画《風景》をご寄贈いただきました。本作品は習作の可能性もありますが、「裸婦の寺内」と評されたこの画家には珍しい風景画であり、寺内の新たな側面を知る手がかりとなるかもしれません。

漫画家・浦沢直樹氏からは、昨年度開催した企画展「浦沢直樹 描いて描いて描きまくる！ー埼玉の巻ー」の関連イベントとして開催されたライブ&ドローイングイベントで制作された 5 点のドローイングをご寄贈いただきました。浦沢氏自身がその場で演奏し、録音した楽曲を BGM に即興的に描かれたもので、漫画作品に登場するキャラクターなどが簡潔な描線で的確にとらえられています。

また、昨年度第 4 期 MOMAS コレクション「特別展示：瑛九の部屋」に特別出品された、瑛九の晩年の代表作《田園》をご寄託いただく運びとなりました。加須市出身の菊沢武江の日本画、関西を拠点に詩的でコンセプチュアルな作品の制作を続ける北辻良央氏の作品もそれぞれ所蔵者の方よりご寄託いただきました。(H.S.)